

人は環境をつくり
環境が人をつくる
キーワードは
MOH (もおっ)

M → **も** **循環**
→ **もったいない**
他の生命を奪って得たものを使わ
せて頂く

O → **お** **共生**
→ **おかげさま**
人は一人では生きられない、環境
によって生かされている

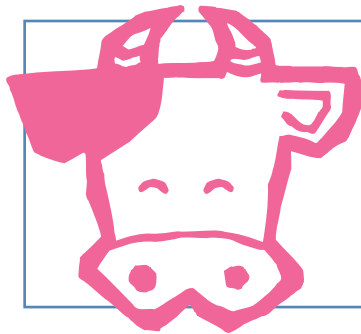
H → **ほ** **抑制**
→ **ほどほどに**
欲はほどほどに、良き環境を作り上
げるために

も う

M・O・H

通信

10号
2005
December



「M・O・H」のマーク = 牛

牛は環境の象徴ともいえます。牛糞はメタン
ガスになり、肥料にもなります。大地を作り、
食物を育て、生物を養います。私たちは命の
源ともいえる、牛を「MOH」のマークとし、
循環型社会の象徴とします



「川道のオコナイさん」が終わると、春を迎えます。

滋賀県びわ町「川道のオコナイ」

目次

<特集> 言葉は地球のメッセージ

- 次世代に残しておきたい言葉―「一筆啓上賞」の町、福井県丸岡町の仕掛け人
対談/大廻 政成&今関 信子 ……1~4
- 環境経済論こぼれ話
花田 真理子 ……5~6
- 世代を問わず共感! MOHの精神
辻村 琴美 ……7~8
- 山暮らし子育て日記(漫画)
オノ ミユキ ……9~10
- 子から親へゆずったもの
今関 信子 ……11~12
- 本の紹介 ……12
- 環境倫理学講座 Part.10
本田 祐志 ……13~14
- M・O・Hニュース ……14
- 循環型社会入門⑦
森 建司 ……15~16
- 講演日記 ……16
- 「人間学」を学ぼう その4
井上 昌幸 ……17~18
- おたよりコーナー ……18

謹賀新年

あけましておめでとうございます。今年も皆様に良い年でありますように、心よりお祈り申し上げます。
本年もMOH通信をよろしくお引き立てくださいませ。

編集一同

〈M・O・H対談〉次世代に残しておきたい言葉

の町、福井県丸岡町の仕掛け人は、喜ばせることが大好きなアイデアマン

対談人／大廻 政成 財団法人丸岡町文化振興事業団 事務局長
今関 信子 児童文学者

■福井県丸岡町 中野重治文庫記念町民図書館
■2005年11月吉日



丸岡町「一筆啓上」の記念碑

『日本一短い手紙』で知られる、福井県丸岡町。同町にゆかりのある徳川家康の家臣、本多作左衛門重次が陣中から妻に充てた手紙、『一筆啓上火の用心 お仙泣かすな 馬肥やせ』

にちなんで、平成5年に創設された「一筆啓上賞」は、人々の飾り気のない言葉に込められた思いが、大きな感動を巻き起こし、以来、実に85万通にのぼる手紙が、同町に寄せられてきました。平成15年からは、往復書簡の形式をとった「新・一筆啓上賞」に様変わりし、さらに、未来へ届けたい手紙『おもひでカプセル便』の実施や、『日本手紙博物館』（計画）の創設・運営など、手紙文化を全国に発信してきました。

かねてから「一筆啓上賞」のファンであり、児童文学作家として活躍中の今関信子先生が、丸岡町の手紙文化の仕掛け人、大廻政成氏とともに、丸岡町の取り組みや、言葉が持つ力、そして、M・O・Hの会の活動が、今後、大きく発展するための課題など、多彩なテーマで語っていただきました。

「素敵な企画をありがとう」 「一筆啓上賞」の丸岡町が描くビジョン

今関 素朴な質問ですが、「日本一短い手紙…一筆啓上賞」から「日本一小さな物語…新・一筆啓上賞」へと様変わりされましたね。何か理由があったのでしょうか？

大廻 「新・一筆啓上賞」は、往復書簡の形式で募集を始めたのですが、そもそも手紙というのは、相手の様子を問い、相手に様子を知らせる、双方の遣り取りが本来の姿だろう、というのが一番の理由です。

今関 往復書簡の形式になったことで、手紙の背景にある物語性が、増したように感じのですが…。主催する側として、何か描いておられるビジョンがあるんですか？

大廻 実は最終的に劇場を作って、手紙から生まれた物語を、歌舞伎仕立ての芝居にして上演したいと思っています。それには莫大な資金が必要になりますから、そのために「おもひでカプセル便」で得た収益の一部を役立てていこうと考えています。

今関 「おもひでカプセル便」は、どういう仕組みになっているんですか？

大廻 手紙をお預かりして、2週間以上、20年未満の指定された日に、手に届ける仕組みになっています。時空を超えて、未来に届ける手紙です。

「一筆啓上賞」のゴールは、「手紙」から生まれた物語を歌舞伎仕立ての芝居にして、舞台上で上演することなんです。（大廻）

から、明日には言いにくいことも、3ヵ月後なら言えるだろうと、そんな風にご利用される方が多いですね。

今関 もうカプセルを開けられた方はおられるのですか？

大廻 お預かりした3万通のうち、既に100通前後が配達済みです。

今関 何か反響はありましたか？

大廻 素敵な企画をありがとう、というお礼状を数多くいただいています。「主人から初めて手紙らしい手紙を貰った」であるとか、反響は大きいですね。中には、やっぱり気持ちが変わったから手紙を返してほしい、という方もおられました（笑）。

今関 数ヵ月後、数年後だからこそ、伝えられる気持ちがありますよね。何だかその方の人生が垣間見える感じが、一つのドラマですね。物書きとして、非常に刺激されます。

大廻 そう言っていたら、非常に嬉しいです。

今関 最初に「一筆啓上賞」を思いつかれたのは、町おこしが狙いだったんですか？ その後、数多くの自治体や団体で、多分、これを参考にしたんだろうな、という取り組みが見られましたか？

大廻 そうですね。私を知る限り、全国で280種類以上、同様の取り組みが見られます。ですが、その多くは数年で途絶えるんですね。
今関 そうなんです。私を知っている

「一筆啓上賞」 人を



「喜んでもらえることが私の幸せ」と語る、大廻さん

ものでも、だいたい5年が限界で、いつの間にか立ち消えになっているんです。**大廻** 理由は簡単で、人事異動で担当者が変わるから、持続しないんです。その点、私は「まだ異動できません」って、自分で自分の異動を主張しますから(笑)。まあ、これは半分ハッタリだと思って聞いてください。

人々の一番身近な言葉の中に、人間の魂が込められている

今関 先ほど言われたお芝居での上演が、最初からビジョンとしてあったわけですね。

大廻 ええ。そのための前哨戦というのでもないですが、2001年に、まるおか子供歌舞伎が誕生しました。同年の11月に旗揚げ公演を行いました。

2005年11月12日に第5回公演を終えたばかりです。実は、その舞台として使用しているのは、大阪・道頓堀にあった中座の破風や緞帳なんです。1999年の1月に中座が閉館して、京都芸大や大阪芸大など、舞台を譲つて欲しいという申し入れが数多くあつたらしいのですが、最終的に松竹株式会社幹部が、「手紙の丸岡なら譲つてもいいよ」とおっしゃつてくださり、近畿圏外から唯一申し入れを行つていた丸岡町に、舞台を譲つていただけることになりました。将来的に、中座の破風と緞帳を備えた「霞座」を開館して、初代座長には、人間国宝クラスの方に就任いただくことで、了解を得ています。こけら落としの演目もおもしろい構想があります。

今関 非常に大掛かりな計画が、背

景にあつたんですね。驚きました。でもなぜ、最終的な目標を劇場とされたんですか？「一筆啓上賞」は、市井の人々の一番身近な言葉から始まつて、そこから劇場に辿り着くまでには、言葉にしる、思いにしる、芸術性を高めるという意味で、鍛えたり、削ぎ落としたり、昇華させなければならぬ部分があると思うんですが。

大廻 そうですね。手紙も文学の範疇に含めるとして申し上げると、どんな文学にも人間の魂がこもつていなければ、感動や共感生まれてこないと思います。しかし、誰もが文学を生み出せるかというと、決してそうではありません。だから身近なところで、俳句や短歌をたしなむ人が多いと思うのですが、手紙というのは、ノンフィクションであり、現実の生身の人間の言葉です。例えば、「お母さん、貴方に出会えて、貴方の子供に産んでくれてありがとう」という言葉を、口ではなく、手紙で貰った人は、どれぐらいいろと思われませんか？ 以前、講演先で2600人程の聴衆を前に、この質問をしてみたのですが、この言葉と同様の手紙を貰ったことのある人が、中に一人だけおられました。その方は、その時も胸のポケットに、手紙をしまつておられま



未来の劇場構想

した。「貴方に出会えて良かった」と、そう言われた人間は、決して自らの命を絶つことはないと思うんですね。

今関 それは私も同感です。

大廻 子どもたちに何かを話す機会がある時、私はいつも言っているんですが、「貴方に会えて良かった」と、そう伝えられる相手を一人でも多く作つて欲しいと思うんです。それが生きるといふことであり、私自身の人生哲学になっています。

今関 偉大な文学にも匹敵する感動が、手紙の中にある、ということですね。



“言の葉”と“心”を情熱的に語る

人と人が出会うことのできる仕掛けづくり、これがM・O・Hの活動の“鍵”にもなるんですね。(今関)

どこまで届くか、「言の葉の力」

大廻 今日の対談に際して、M・O・H通信を拝見しましたが、非常に共感できる部分があります。特に「もったいない」「おかげさま」は、私の中にも同じ思いがあります。しかし唯一、「ほどほどに」。これだけは実践が難しいんですよ(笑)。

今関 確かに抑制するということは難しいですね。だからこそ、M・O・Hの精神の中でも、一番重要になると思っています。

大廻 ほどほどの生き方というのが、私には難しいんですよ(笑)。

今関 実は私も、全力投球型の人間で、以前、取材旅行でカンボジアを訪れた際も、周囲からは「そんな危ない所に行かないほうがいいよ」と言われました。でも、危ない所だからこそ、自分の目で見たい、と思ってしまうタイプなんです(笑)。物書きとして、空想の世界を描くより、リアルな世界を描きたいという思いが強いですね。ですから、リアルで素朴な言葉で綴られた「一筆啓上賞」には、以前から非常に興味があつて、中でも「母ちゃんは、地球の彫刻屋」という手紙が、今も非常に印象に残っています。

大廻 確か、「母」への想いをテーマにした第5回の際に、応募いただいた手紙であつたと思います。父親が病弱で、

母親が日雇いの土方仕事をして、子どもを育て上げるんですね。その子どもが成長して、自分が面倒を見るから、母ちゃん、地球の彫刻屋はもう辞めなよ、という内容でした。

今関 母親の仕事を誇りに思い、母親への愛情がなければ、「母ちゃんは、地球の彫刻屋」なんて言葉は出てこないと思うんです。こんなに短くて、こんなに熱を持った言葉があるんだなって、自分の仕事机の前に、その手紙を書いた紙を貼っています。

大廻 私は第1回から、応募いただいたすべての手紙に目を通してはいるんですが、その時の感動たるや、言葉で言い尽くせないものがあります。

今関 例えば映像という表現方法もありますが、言葉で、言葉で、言葉で、強いな、と思うのは、自分の中に残り続けるという点です。時が経っても、またその言葉を思い出し、今の自分と照らし合わせたり、新たに語りかけるものがあると思うんです。

大廻 それこそ「言の葉の力」ですね。私たちが手紙を選考する基準というのは、そ

こに物語があるかどうか、この一点に絞られるんですが、その物語の塊が、これまでに出版してきた入賞作品集だと思っています。

「もったいない」という観念の世界に留まってはいけない。何がもったいないのか、共通項を設ける

今関 私は物書きですから、自分自身が物語や言葉の塊だと思っっているんです。それで、自分が発信したものに對して、どんな言葉が返ってくるだろう、返ってきてほしいな、と。読者との心の交流を期待しているんですね。M・O・H通信も、M・O・Hの会が目指すべきビジョンがあつて、こういう思いが響けばいいなあ、と考えて原稿を書いているんですが、何か読者との相互



「読者との心のつながりを大切にしたい」と今関さん

交流を叶える形がとれないかと思うんです。大廻さんの意見をぜひ、お聞きしたいと思うんですが。

大廻 M・O・H通信に対して、意見は山ほどあるんです。その前に、なぜ私が劇場にこだわるのかをお話しますと、少なくとも日本において博物館と呼ばれるものは、図書館もその一種に含めるとして、すべて(展示方法が)平面ですよ。しかし、人間の生き様というのは、立体なんです。この違いをどう克服していくのか、と考えた時、物語が生まれ、物語を具象化した芝居が生まれるのではないだろうかと思うんです。つまり、劇場とは立体展示であり、平面と立体の展示物両方を見られてこそ、博物館や図書館として完成されたものではないだろうかと思うんですね。そういう意味から言わせていただくと、今後の課題として、M・O・Hの精神を立体化していく、具象化していくことが必要になつてくるのではないかと思います。それが実現した時、M・O・Hの会が社会に訴えようとしていることの訴求力が、何倍にも何十倍にもなると思うんですが。

今関 不特定多数の、できるだけ多数の人を触発して、一緒に「もったいない、おかげさま、ほどほどに」ということを考えていきましようという力が、私も含め、M・O・Hの会に、まだ不足していると思うのですが、例えば言葉の力で、それを伝えることは可能だと思われませんか？

大廻 M・O・Hの精神を、普遍的なものにするためには、そこに何か共通項を設ける必要があると思います。そうしないと、一つの閉じた世界で終

わつてしまふ、何年立つても前に進まないという状況に陥りがちです。例えば「もったいない」という言葉には、誰もが共感します。しかし、何がもったいないんだ、という具体的なところが、欠けているんじゃないでしょうか。

今関 「もったいない」という、観念の世界だけに留まつてはいけないということですね。

大廻 具体的なものには説得力がありますし、説得力があるものは必ず広がっていきます。M・O・Hの活動に参加していただき、と言うだけでなく、こういうことをしましよう、という具体的な行動に走らせる必要があると

思うんです。私たちも、いつか丸岡町に劇場を誕生させるんだ、という思いがあつて、「二筆啓上賞」から「新・二筆啓上賞」へ、そして「おもひでカプセル便」へと、コマを進めてきたわけですが、皆さんが参加してくれることで、丸岡町はこういうことをやります、劇場を作りまふ、と具体的に指し示してきたからこそ、これだけ多くの人に関心を持ってもらうことができたんだと思つていきます。

今関 お話をお聞きして、人と人が出会うことのできる仕掛けづくり、これが鍵になるんじゃないかと感じたのですが、私たちM・O・Hの会の今後



丸岡町文化振興事業団事務所にて

ぜひ役立てていきたいと思ひます。
大廻 どんな仕掛けを考えるにしろ、一番は人を喜ばせたい、笑顔が見たいという気持ちに尽きると思ひます。
今関 今日はお会いできて、非常に光栄でした。ありがとうございます。

大廻

● おおまわり まさなり 1950年、丸岡生まれ。東京で学生社会人など経験後帰郷。1983年丸岡町役場職員となり、振媛文学賞や、中野重治文学奨励賞、一筆啓上賞などの、創設・運営に深く関与。1998年より(財)丸岡町文化振興事業団事務局長。趣味として劇団「薔」主宰。

いませきの心 1942年東京生まれ。東京保育女子学院卒業後、幼稚園教諭となる。7年間保育者として働いた後、創作活動にはいる。日本児童文学者協会理事。

● 主な著書 「小犬の裁判はじめます」1987年 童心社 青少年読書感想文コンクール課題図書。「さよならの日のねずみ花火」1995年 国土社 青少年読書感想文コンクール課題図書、厚生省中央児童福祉審議会推薦文化財。「地雷の村で『寺子屋』づくり」2003年 PHP 研究所 など多数

● 財団法人丸岡町文化振興事業団
〒910-0298 福井県坂井郡丸岡町霞町1-41-1
TEL 0776-6715100
FAX 0776-6714747

「外部不経済」ってなあに

大阪産業大学人間環境学研究所助教授

花田 真理子

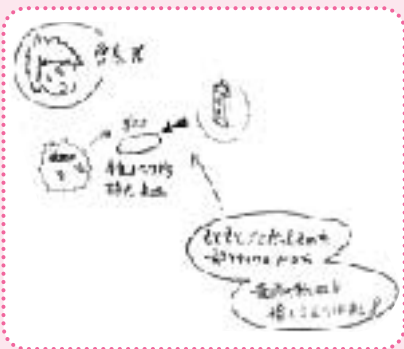
おや、お隣の耕ちゃん、お帰り。こんなに遅くまで学校かい？ そうか、もうすぐ文化祭なんだね。なにに、耕ちゃん、山岳部模擬店では焼きそばを出すのかい。で、いくらで売ったらいいか、意見がまとまらなくてこんな時間になっちゃったんだね。まあここへお座り、おじさんも一緒に考えてみようじゃないか。



まず材料費は麺と野菜に調味料、ちよつと豪華に近江牛の細切れが入って、全部で1皿分120円だね。鉄板のレンタル料にプロパンガスの燃料費合わせて1皿15円だと。それに紙皿10円に割り箸が5円。商売なら人件費や工場の建設費なんかが必要だけど、文化祭では必要なし。じゃあ、焼きそばの製造コストは全部で1皿150円だね。それに100円の儲けを加えて250円で売る、と。それで話がまとまりかけた時、紙皿と割り箸を使うと売れた分だけごみが出てしまうのが気になる、と言いだめた友達がいるんだね。



まず翔太君は、1枚1000円のプラスチックのお皿を使って、食べ終わったお皿を洗って使えばいいというわけだ。こりゃたしかに紙皿というごみは出ないぞ。しかし、食べ終わったお皿を返してもらわないとお皿の分で儲けがゼロになっちゃう。どうやって戻してもらえばいいのかな。おじさんはドイツの市民祭りに行ったことがあるんだが、ソーセージやポテトの盛り合わせを買ったら、お皿の借りを2000円くらい払ったよ。これはお皿を買った屋台に戻しに行く、返してくれるんだ。いわばお皿の保証金みたいなものだね。これを「デポジット(預かり金)」という。



ただし、盛り合わせの値段にデポジットの分を最初から加算しているから、ちよつと見に高いように感じてしまうのさ。だから、もしほかの模擬店でデポジットをやっていないと、売れ行きが落ちるかもしれないね。もうひとつ、焼きそばはかなり油や調味料を使うから、水だけでは汚れが落ちないね。帰ってきたお皿を洗うだけで、ずいぶん汚れた水を流すことになりそうだなあ。

次に啓太君が、牛乳パックからできたお皿を持つてきた、と。これはもともと牛乳パックだからまあそのまま捨てたらごみになつたものだ。だから、紙皿として使った後捨てても、原料を二回りサイクルしているわけだから、普通の紙皿を捨てるよりはましだね。しかし高いなあ、1枚20円か。紙皿の倍だね。

耕ちゃんとおじさんが話していたのは、環境経済論で「外部不経済」と呼ばれる問題です。経済活動の結果として第三者や社会全体に悪影響(「不経済」)を発生してしまうことを「外部不経済」と言いますが、コスト計算上は「外部コスト」と呼ばれます。空気を汚したり、たくさんのごみが残ってしまうような「外部不経済」は、原料や人件費などの生産コストの計算には入っていません。市場経済では、コスト計算に入っているものは、なるべく小さくしようというメカニズムが働きますが、外部コストは市場のコスト計算に入っていないため、市場メカニズムが働きません。だから外部コストは減らないのです。

そこで、市場の外に発生する悪影響「外部不経済」に価格をつけることで、コストの計算に加えて、市場メカニズムの中に入れてやる必要があります。これを「外部コストの内別化」と言います。ここでは、ごみ処理コストの負担制度の導入が話題に上がりましたが、処理費用も負担することになれば、それが生産コストの計算の時に考慮されますから、コスト削減努力の対象として、市場メカニズムに入ってくることになるからです。企業はその分のコストを減らすために、ごみになる容器はできるだけ減らそうとしますし、消費者はごみ処理費用も含めた価格で買うものを選んでいきますから、なるべく安いものを選ぶうとすれば、「ごみの少ないもの」を選ぶことになるのです。その結果、社会全体で見ても、ごみなどの悪影響が少なくなっていくわけです。

最近、新聞などで目にする『炭素

<アンケート調査>私たちは循環型社会を必要としているか

循環型社会のパイオニアは私たちだ 世代を問わず共感! MOHの精神

MOH通信 編集長
辻村 琴美

【期間】平成二十七年七月〜十月
【講演数】七回
【参加者】三三三名
【回収数】一八三名
【内訳】男性(四〇〇〜六〇才台) 一五八名、女性(五〇〜七〇才台) 一三四名、教育関係者男女(四〇〜五〇才台) 一七六名、大学生男女(二〇〜三十才) 一五五名。
【設問】①循環型社会に興味をもちましたか ②循環型社会について知りたいですか ③講演を聴いて印象に残ったことは何ですか

アンケートで皆さんの考えを聞いてみると

MOH通信は、発刊一〇号を迎えました。もったいない、おかげさま、ほどこにを啓発する「環境倫理の講演」は、二年間(平成六年三月〜七年二月現在)で六七回を数え、聴衆数は三三六六人をこえました。皆様の暖かいご支援のおかげと深く感謝しております。

私たちは「循環型社会形成に向けた環境倫理を啓発する」という目的で、このMOH通信を発行し、講演をしております。最近「循環型」という言葉をよく聞くようになりました。また、「循環型」をキーワードとする各地でNPOが発足しているようです(資源循環型も含む)。

私たちは、世の流れをひそやかに感じつつも、「循環型社会ってナンヤネン?必要か?」という疑問はいぜん残っています。そして、「環境倫理の啓発はなんの役に立つか?」という問いかけも、常に持っています。そこで、

講演を聴いていただいた方に協力いただきアンケートを実施しました。期間が限定されたため、サンプル数が少ないのですが、ある傾向を読み取ることができました。

それは、とてもシンプルで分かりやすいものです。私たちは具体的な課題に直面していることを実感しました。「循環型社会の必要性は感じている」「循環型社会の具体的な像を知りたい」「循環型社会を迎えるために、自分は何をすべきか?」

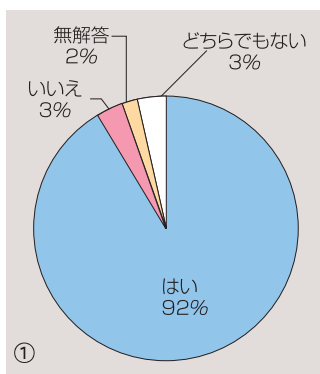
この三つの疑問に答えるべく、私たち、MOH通信「は皆さんに情報を伝え、循環型社会へのパイオニアとなるべく発信を続けます。では、今回のアンケート結果をお知らせします。

私たちは、循環型社会に共鳴する

①循環型社会に興味を持ちましたか

男性は九二%、女性八八%、教育者九三%、学生二〇〇%(一円グラフ①)、平均九三・二五%。興味は高い。特に学生は、自分の将来に関わるためか切実さが伺えます。

興味を持った事は次の通り。



●男性

「循環型社会というのはこれからの日本の経済に必ず必要となってくる」「いずれにしても到来する時代のことなので、早く着目できるかが生き残る秘訣であろう」

「自社・業界にとつての「循環型」を見つめるきっかけになった」

●女性

「身近な生活からの改革の必要性」「もったいないにつながる行事を広げていこう」

「ものを大切にすること」

「バイオ技術の発展とニュービジネスに興味を持った」

●教育者

「未来を考えるとぜひ必要(循環型&MOH)」

「これからは「ほどほど」にするなかで、あるものを役立てるように考えることが、循環型社会の第一歩と思う」

「これからの社会は人とのつながりが重要だ」

「経済至上主義の欠点を克服するために、MOHは必要である」

「子どもたちに何を伝えるか、大人が忘れていたのでは」

「循環型社会の思想が、今日の課題解決の糸口になるかも」

●大学生

「心を大切に作る時代、内面にも循環型社会がある」

「今後の社会・世の中を考える上でキーになる内容だ」「循環型社会はこれからの日本の経済に必ず必要となる」

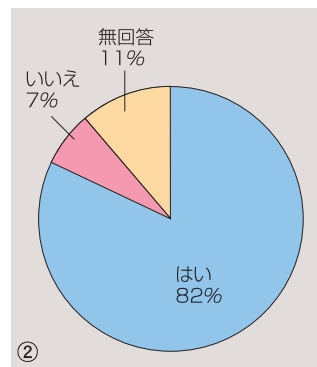
「二代で何かを築くのではなく、子孫に残し、発展させること」

社会を変えることが必要だ

②循環型社会について知りたいですか

循環型社会について興味を持ったかを聞いてみました。

男性は八二%、女性八八%、教育者七三%、学生二〇〇%(一円グラフ②)、平均八五・七五%。もう一歩、突っ込んで知りたいという層は若干減少の様様。興味を持った点は次の通り。



●男性

「エコ村での実践を知りたい」

「具体的なモデルと失敗例」

「モデルを実践してみたい」

「経済とのバランス、循環型社会の経済論」

「モデル・ビジョンを知りたい。共生会と違いはあるのか」

「私たちが今後すべきことを具体的に」「循環型社会のシステムと倫理観を知りたい」

「私たちの生活に何が役立つか」

「農業・林業・漁業についての方向性と展開」

「人とのつながりのつくり方」

「企業のあり方」
「メリット、デメリット」
「漁業についての方向性と展開」

「人とのつながりのつくり方」
「企業のあり方」
「メリット、デメリット」

●女性

「暮らしよい社会実現のため、消費者のすべきこと、考え方」
「とりあえず、できることから実践」
「自然派循環型社会への取り組み方法と実践」
「各地の活動と取り組みの紹介」
「古い民家をいかに活かすか」
「地下資源から地上資源へ」

●教育者

「廃棄物をどう処理するか」
「学校教育の中でどのように考え、実践していけるか」
「身近な生活での活かし方、具体的な事例と実践」
「循環型社会のつくり方」
「若い人(次世代)へのひろげかた」
「日本・世界の取り組みを知りたい」

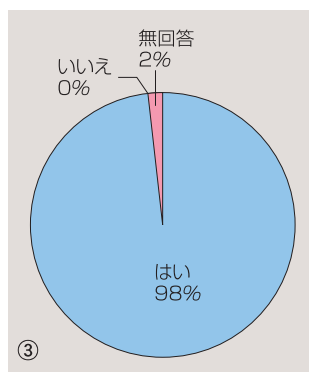
●大学生

「社会をどう変えていたらよいか知りたいたい」
「事例、企業の取り組みを知りたい」
「社会に出る時代には経済システムが変わっていくかもしれない。常識や真の利益とは何かを早くみつきたい」
「大きな視点で見るとはどうか」
「循環型社会は様々な視点が必要だ」
「循環型社会の理想像を知りたい」

人の心の大切さを社会に
反映させるには

③講演を聴いて印象に残ったことは何ですか
講演の感想を良かったと答えた人

講演の感想を良かったと答えた人は、男性は九八%、女性一〇〇%、教育者九六%、学生二〇〇%(＝円グラフ③)、平均九八・五%。



皆さんの熱心さには、私もが敬服します。講演の中で、何かが皆さんの心に残れば幸いです。印象に残った事は次の通り。

●男性

「循環型社会は大いに楽しみ。学んで行きたい」
「今は興味を持つ人は少ないが、必ず循環型社会に近づいてくる」
「中小企業は時流にあつたビジネスチャンス求めている」
「自分の意識が変わつた」
「時流」「循環型社会の存在」「循環型社会の考え方」「家は子孫のために」「地産地消」「自己矛盾・自己破壊」「社長が破壊者」「人とのきずな」

●女性

「もつたないという言葉」
「循環型社会を初めて知つた」
「三〇〇年住宅の大切さ、子孫のための家」
「良いもの(物の価値)を見分ける力をつけなければ」

「昔の生活の継承」
「今の社会に欠けていることを考え直す」
「無駄な包装」
「大切にすること、人物・時間・自分」
「MOHの理念と活動」

●教育者

「循環型社会は大事だ。もつたない、おかげさま・ほどほどにと言う言葉」
「自然との共生」
「近江商人の生き方」
「人の役に立てる生き方」
「自分の背中で示すこと」
「エコ村の提案」
「利潤追求より循環型社会の追求を」
「会社のトップが経済人なのに、利益追求を否定していること」
「企業と教育現場に共通点がある」
「辛抱」
「自分が聞いた親の話を子どもに伝えていない」
「目先の利より哲学」
「あほになる修行は難しいものだ」
「MOHの言葉」
「もつたないという言葉は、消費社会では新しい言葉。三方良しの考えが分かつた」

●大学生

「心の問題を学ぶ機会が少ないことに危機感を感じた」
「自分も悔しい思いをしたので、悔しさを忘れるな」は共感する」
「自己矛盾の話に納得」
「経済がマニュアルづけになっていること」
「経済システムが変わる、人間中心の経済社会」
「丁稚奉公の話が印象に残つた」
「人の心」

まとめ

「もつたない・おかげさま・ほどほどに」は次世代のキーワード
年代の差は見られますが、総合的にもつたない・おかげさま・ほどほどにには、共感をいただいているようです。
年齢の高い人は、「いまさら、言うても孫は耳を貸さんし」という思いを抱いていたのではないのでしょうか。
大学生は「自分や人の心を大切にしよう」として理解しているようです。

企業の方は「経済のなかで新鮮な言葉だ」と驚かれた人も多いのではないのでしょうか。
教育者は「子どもに伝えていなかつた」事に気付いた方も見られました。

循環型社会をつくる覚悟は出ていますか？

このことは、少なからず動揺を与えたようです。「企業のトップが経済活動を否定して、どないすんねん」という心配をかけたようです。

一方で、環境面・経済面・教育面・社会面・就職活動に、問題を投げかけました。「社会は変換期を迎えています。確かに、今のままではダメだ」という思いは年代を隔てず、共通の概念として持っていたらいいようです。皆さんの、それぞれの現場を通じた見識と合致していることに勇気をいただきました。

一人一人が活動↓輪となり↓広がり↓社会を変える
「循環型社会はエエけど、何したら

エエの?」「循環型社会ってどんな?」という質問はもっともです。それが、MOH通信の役目です。私たちが循環型社会のバイオニアとなり、未来の姿を、今、作り出そうとしているのです。皆さんもその一人。

「もつたないに通じる行事を広めること」「子どもに話すこと」「新しい事業を模索すること」「新しい経済を考へること」。一人一人が出来ることから始めてください。それが積み重なって、循環型社会のモデルになり、事例になります。経済・社会の仕組みは研究者が取り組んでいきます。実践者はあなたです。

日本の、世界のバイオニアは誰であろう、私たちです。私たちはこの空間を共有できることを誇りに思っています。

辻村琴美

●つじむらこことみ 1956年大阪府生まれ金蘭短期大学卒業、1976年帝国飲食料新聞社入社、1990年新江州株)に入社(当時の社名は江州紙業)、2002年会長秘書に配属、2003年MOH通信を発刊
得意なこと/取材編集営業

オノミユキの

山暮らし子育て日記

作:オノミユキ



何でもよく食べる。

畑の大根葉、カボチャ、人参、トウモロコシ...

しかもお隣りさんは川のむこう。泣き叫んでもムター。

おかあさん、バカ。

あっち行け。

オノミユキの息子は、3才。

遊ばぬの大母。

落ちてはいる。こぼれも、ローソク。

もうバカでいいかへん。

もう詩をい。

障子を破って、ミニカーを並べたり。

あやしい黒い粒も...

毎日毎日、おのりのり返して。

シカの所へ行って行く。

食器棚から皿を出して、ままごとしたり。

食したものは、カメムシやまてエ、それ。

こちらは娘。オオ。

食べるほど大好キ。

わが家の目の前は山。

夜はまじ、暗。

大人でもこわい。

カビ、おちたり。



● オノムキ (本名 加藤 みゆき) =1974年生まれ。滋賀県志賀町育ち。1997年に朽木村 (現高島市) に移住。朽木の自然、行事、人間などを3冊の本にまとめ出版。現在は2人の子どもを子育て中。

子から親へゆもったもの

今関 信子



イラスト：佐々木洋一

2005年初秋、十日間だけだったが、イスラエルに滞在した。バット・ヘン・シャハクという女の子の暮らしに触れるためだった。

バット・ヘンは、1988年、春の兆しが感じられるプリムの祭りの日に生まれた。そして、1999年のプリムの祭りの日に死んだ。十五才の誕生日だった。自爆テロに巻き込まれたのだ。

葬式が済んだ後、父親のツピカは、仕事に没頭した。喪失感を紛らすためだったのだろうが、ほとんどしゃべらないで体を動かした。母親のアエレットは、バット・ヘンの部屋にこもりっぱなしになった。在りし日のバット・ヘンを探し求めるように、彼女の持ち物、机、ベッド、ワードローブの中の服など……ていねいに整理していった。

そして、日記を発見した。日記には平和について書いた文章がいくつもあった。その二つ、九才の時書いた詩には、この国の子も自分の国を愛するうちに、バット・ヘンも、「この美しい国にないものはありません」と謳っていた。そして、この国にほしいのは、「ただ一つ、平和です」だったのだ。

私は、お母さんにお目にかかったとき、日記を読んでどう思われたか質問してみた。「遺言された気がした」との返事だった。

それを証しするうちに、日記を読んだ後の両親の活動は活力があふれます。やるべき事が見つかったのだ。愛する娘の遺志を実現させたいのだ。

まずは、「バット・ヘン記念会」を立ち上げた。そこで、バット・ヘンが願った、平和を求めるために活動している、団体や個人を表彰していった。そうすることで、平和を願う活動のすばらしさを、より多くの人に知ってもらおうと考えたのだ。

バット・ヘンの日記を、出版した。パレスチナの子どもたちにも、よんでほしいからと、アラビア語版も出した。それから、バット・ヘンの詩に刺激されて、劇化、作曲、詩作などを試み、すぐれた作品を作った人に奨学金をおくった。

そのための資金を、お父さんは一人で働いて作り出している。朝早くから夜遅くまで、忙しく働く。でもお父さんは、家に帰るとよくしゃべるようになった。お母さんは、バット・ヘンの詩を一人でも多くの人に読んでもらおうと、パソコンと向かい合う。

二人は愛する人を失ったという「痛み」を共通項に、何とか分かり合っていくと交流する「パレスチナ・イスラエル遺族の会」で、毎週金曜日活動するようになった。平和を求める活動をいかにして実現するか、

本の紹介

最近入手した、気になる本をご紹介します。

- 編集／「筆啓上賞受賞作品集」
- 発行所／(財)丸岡町文化振興事業団
- 価格／500円
- 内容／福井県丸岡町の文化振興事業団と住友グループが取り組む「筆啓上賞」は、第1回の「母」より、毎回、喜怒哀楽をテーマ



「Japan's Best "Short Letters to Feelings" THE BEST 51 LETTERS」

- 編集／第13回環境自治体会議 東海村会議実行委員会事務局
- 発行所／環境自治体会議事務局
- 価格／参加費を含む



「第13回環境自治体会議 東海村会議報告書」

マに12年を迎える。この本は2003年に出版された英語版。ペスト51が英語と日本語で読める。

● 内容／5月25日〜27日に東海村で環境自治体会議が開催された。テーマは「人・自然・文化が響き合うまちをめざして」環境の保全と創造に努め、持続可能な循環型社会の構築。東海村宣言の文中に「経済至上主義の思考から自由となり、人間の尊厳に目を開くときである」と謳われている。

- 編集発行人／今井今朝春
- 発行所／ワールドフォトプレス
- 価格／1524円＋税
- 内容／MOH通信9号で紹介した柴山直子さんが掲載されている。「古い家にかくされたすごさを大解剖する雑誌。NPO古材バンクの会も協力している。



「古民家再生」

- 著者／中嶋忠三郎
- 発行所／サンデー社
- 価格／2000円＋税
- 内容／側近11が語る西武王国崩壊の危機。堤康次郎、堤明両氏に使えた、元側近の著者が4年前に書き遺していた真実。西武・コクドの株式偽装工作など一連の不祥事の内幕を赤裸々にいっしょ。



「西武王国—その光と影—」

それを学ぶが勉強会に片道四時間をかけて、エルサレムまでかけつける。二人には、静かな闘志が燃えている。娘から託された平和な暮らしを作り出すために。

浅木洋一

● ささき かつい 1940年生まれ。高校在学中より習作のため、長浜市周辺の風景を数多く描く。1964年長浜市展特選受賞、以降受賞を重ねる。滋賀県展特選4回受賞。西友長浜築市などで個展数十回開催。現在、デザイン・製版事務所代表。著作には画文集「30年前の長浜」がある。市内にて洋画入門講座を開き、後進の指導にも尽力。長浜日曜画家協会創立より代表世話役を務める。長浜市在住。

普通のパターンなら、先に生きている者が、次代を生きている者へ何かを渡す。だが、ここには、異なる形の受け渡しがあった。

ういさ

● いませき のぶこ 1942年東京生まれ。東京保育女子学院卒業後、幼稚園教諭となる。7年間保育者として働いた後、創作活動にはいる。日本児童文学者協会理事。
 <主な著書>「小犬の裁判はじめます」1987年 童心社 青少年読書感想文コンクール課題図書。「さよならの日のぬすみ花火」1995年 国土社 青少年読書感想文コンクール課題図書、厚生省中央児童福祉審議会推薦文化財。「地雷の村で」「寺子屋」「へり」2003年 PHP研究所 など多数

自然尊重のさまざまな考え方

— 反・人間中心主義 ② —

本田先生の環境倫理学講座 Part.10

本田 裕志

今回は反・人間中心主義について基本的なことを述べましたが、この立場には、いくつもの異なった考えが混在しています。今回から次回にかけては、それらを比較検討して、もっとも説得力のある考え方はどれかを考えることにします。

■「動物の権利」の主張

反・人間中心主義の考え方の中でもっともポピュラーなのは、動物の権利と解放を主張する人々のそれです。この考え方は、私たち人間が他の存在とは異なる尊厳や基本的権利を持つことの理由とされてきた諸特質——たとえば知的能力・快苦の感情・コミュニケーション能力・身内や仲間との暖かいつながり、その他——が、必ずしも人間だけに特有のものではなく、大なり小なり他の動物にも見出される、という事実に基づいて、動物にも人間と同様の、もしくは人間に準じる尊厳や権利を認めるよう主張するものです。その場合、右に挙げた諸能力はどの動物種でも各々の個体を主体として発揮されますから、この考え方は種ごとではなく、一頭一頭の動物に、人間の一人ひとりと同様に認められるのと同様な、尊厳や権利を認める個体尊重の立場をとることになります。この「動物の権利」論は、欧米で古くからさかんな動物愛護の運動と結びつき、環境保護のほか、肉食・狩猟・捕鯨・動物実験などへの反対運動の理論的な支えとなつています。

■「動物の権利」論の意義と限界

この考え方の長所は、たいへんわかりやすいことです。「動物だつて自分の置かれている状況がわかるし、痛みも苦しみも感じるし、殺されたり、いじめられたり、自由を奪われたり、仲間を失ったりするのはいやなのだ。だから私たちは、自分がされたくない、そういうことを、動物に対してもすべきでない」という主張は、小さな子どもにも素直に受け入れられるでしょう。この意味で「動物の権利」論は、この世で尊ばれるべき生き物は人間だけではない、という意識を多くの人々に広めるうえで、とても有意義な主張と言えます。

しかし環境保護の理論としては、この考え方には不十分な点が多すぎます。動物には人間と同じ性質や能力があるから尊重すべきだ、というのでは、本当の意味での反・人間中心主義とは言えず、植物や微生物までも含めた生態系全体を尊重することになりません。この立場の人々が、増えすぎて生態系を乱す恐れのある野生動物の捕獲に反対する場面があることは、その典型的な現れです。また彼らの中には、毛皮や革製品の使用に反対して、環境への負担の大きい化学繊維や合成皮革の使用を主張したり、古くから生態系と調和して展開されてきた狩猟・漁業文化を敵視したりする人々がいることも、大きな問題です。

■アニミズム

反・人間中心主義に含まれる第二の考え方は、アニミズムと呼ばれるものです。これは、生物であれ無生物であれすべての自然物にはそれぞれに靈魂が宿っている、という考え方で、この場合、自然物が巨大・壮麗であれば、その靈魂も偉大かつ神のとみなされ、崇拜の対象とされます。日本の神道では、古い巨木をご神木として崇めたり、山や滝などの自然物をご神体として祀ったりしますが、これはアニミズムの一例です。アニミズムは、かつては世界中に広く見られましたが、「神Ⅱ創造主」と「自然Ⅱ被造物」の峻別を説くキリスト教や、近代科学の合理的自然観が広まるにつれて、多くの地域で消滅したと言われます。近年の環境保護思想家の中には、このことによる自然への畏敬の消失こそが、環境破壊の思想的元凶であるとして、アニミズム復活の必要を説く人々が少なくありません。

アニミズムは、道徳的尊重の対象を動物に限定せず、無生物をも含むあらゆる自然物を尊ぶ点で、環境保護思想として優れています。しかし、「木や石にさえ魂がある」という考え方は一種の宗教的信念であつて、今のところ科学的・合理的根拠を欠いていますから、これを信じない人に「あなたは、これこれこういう理由で間違っている」とは言えないというところに、限界があると言えます。

M・O・Hニュース

「ロハス的生活のススメ」

2005年11月3日 朝日新聞 be Extra

＜読後の感想＞ロハスという生活スタイルに関心を持つ人を紹介し、地球の環境を大切にできる価値観をできることから実践することを勧めています。驚きは、ホテルや飲食店もロハス仕様を採用していること。したたかな商売根性を痛感します。しかし、世の流れが変わっていることが実感できます

＜豆知識＞ホームページより抜粋

ロハス、ローハス(Lifestyles Of Health And Sustainability) アメリカの社会学者ポール・レイ氏と心理学者シェリー・アンダーソン氏が提唱した英語の略称。「心と身体、地球にやさしいライフスタイルで地球環境を持続させよう」という意味だそう。ロハス(LOHAS)な人々は、単に環境に配慮するだけでなく、家族や地球の健康、さらには社会の将来にまで関心をもっている。最近ではテレビ番組でも特集するとか。

スローライフ＝自分の価値を發揮し、充実感の高いライフスタイルのこと。

キーワード＝①環境にやさしいライフスタイル ②持続可能な経済の実現 ③薬に頼らない健康管理 ④ヘルシー食品やナチュラル製品を利用 ⑤自己啓発のための投資

「ニコニコ移動販売スタート」

2005年11月10日 京都新聞

滋賀県野洲市内のNPO法人エコロカル ヤス ドット コムと地域通貨を発行している同市地産地消推進協議会は、野菜やみそなど会員の農家・商店主らがつくった農産物や加工品の移動販売をスタートさせた。ワゴン車にいっぱいに乗せた商品は飛ぶように売れた。「要望があれば家の前まで行く予定。お年寄りや身体の不自由な人も利用してもらいたい」。

地域通貨“すまいる”の定着も促進し、商品の10%に“すまいる”が利用できるようにした。売り上げの一部は、太陽光発電施設の建設費にあてる。

老いてますます過激になる活動家

ザ・ボデイショップ創業者 アニータ・ロデックさん63歳

2005年11月19日 朝日新聞

天然原料を素材にしたオリジナル化粧品を製造販売する「ザ・ボデイショップ」。今や53カ国2000店舗に成長し顧客は7700万人にのぼる。その創業者がアニータ・ロデックさん63歳。同店は、創業時から「動物実験反対」「環境保護」「人権擁護」を経営の柱に掲げる型破りな企業だ。現在、彼女は経営権を手放し非常勤役員に退いたが、今も大株主で同社にアイデアを提供する「社会活動家」。イラク戦争批判から貧困撲滅運動まで仮借ない批判を政治家に浴びせる。『老いてますます過激』は彼女の座右の銘。

「循環型社会研究会が始動」

琵琶湖・環境科学研究センター

滋賀県立琵琶湖・環境科学研究センターでは、「循環型社会研究会」を発足させた。内藤正明センター長を始め、森建司、内田敬之、杉田博樹、堤幸一、進ひろこ、山口美知子、センター研究員6名の計13名による研究会。循環型社会の扉が拓かれる。

■ ガイア仮説

諸生物は仲間同士であつて人間だけが特別なのではない、という考え方をより科学的な根拠に基づいて主張したものに、ガイア仮説があります。これは、生態系は独立した生命を持つ種多様な生物の寄り集まりではなく、一つの生命に貫かれた一つの生命体であり、個々の生物はその器官ないし組織に当たるといって、ガイアとは、古代ギリシャ語で「大地(の女神)」を意味する語によってこの生命体に名づけたものです。この説を唱えたのは、アメリカの航空宇宙局(NASA)で仕事をしたことのあるイギリス人科学者のJ・E・ラウロックで、彼によれば、地球が生命に適した気温や大気組成などの諸条件を長く保っているのは、右の生命体が自らの生存に適するように自己の体内環境を維持しているからだと考えなければ説明がつかない、ということ。それはちょうど、私たちの身体の体温や物質成分量などが、私たちの生命そのものによって一定に保たれているのであつて、たまたま好適な体

内環境条件が発生・持続しているから身体が生存しているとは考えられないと同様だ、というわけです。

この説は、単なる信念ではなく、科学的に確認された事実を合理的に説明するために立てられた理論ですが、残念ながら未検証の仮説の段階に留まっております。多くの人が認める定説とはなっていない。反・人間中心主義の主張を万人が納得せざるをえないように根拠づけるには、誰もが真と認める検証済みの科学的認識に立脚した別の考え方が必要でしょう。今回はそういう考え方を紹介することにしましょう。

本田 裕志

● ほんだ ひろし 龍谷大学文学部助教授(専攻 哲学・倫理学)

循環型社会を支える基本理念

循環型社会入門⑦

3.「家」とは何だろう

森 建司



イラスト：佐々木洋一

自分にとって家とは何だろう。

家とは自分の存在を証明する核のようなものだ。

別の言い方をすると、家とは「わが一族郎党を生み出す、偉大なる母の胎内のようなもの」であり、「命を預ける大地であり」、われわれ高齢者にとっては「西方浄土に開かれた門」のようなところである。

「我が家系」の歴史は連綿と「家」によって伝えられている。先祖は自分の子孫を後世に伝えるために、家を持ち、結婚をして子どもをもうけ、育て、生涯その「家」を守りながら生きて、終には死んでいく。子どもたちも親の背中を見てその思いを学び、長子はその家を継ぎ、継がないものは新しく家を得て、そして、そこでその子孫の繁栄を図っていく。

しかし今、世間では、家庭崩壊、家族離散のような現象が、その予備軍を入れると数多く見られるようになった。その最小単位の「核」が壊れる事によって地域や、社会、ついには国家意識にまで、影響が出ようとしている。その崩壊現象を食い止めるためには家庭や家族の再建、家意識の復活が急務といえよう。

その「我が家」を守るためには、それを取り巻く「我が地域」を守らなければならない。地域とは隣近所のコミュニティであり、神社やお寺、公民館や学校、職場であり、道路、川や池、田んぼに畑、まさに森羅万象、自らを包み込む環境であることを理解できれば、われわれには自ずから強い「愛着と畏れ」をもつて守っていく意識が出来ていくはずである。

その思いがやがて「良き国家、国土」を守る意識として発展していくのではないだろうか。環境負荷の削減も、その他様々なボランティア活動も、究極はそこに住み続け、居つく事による「愛と畏れ(土着の意識)」が裏づけとなければ進展しないように思う。

環境問題を語るにしても、循環型社会を語るにも、このような古い概念を持ち出してくることに違和感を持つ人も多いと思う。「家を守るために犠牲になる」これは悲劇として、特に女性の社会進出を妨げる考え方として、近年はむしろ排除されてきた。勿論、女性ばかりでなく、生まれた地域に終世、住み続ける事は男性にとっても、生き方の選択肢の上からも大きな制約になる。特にグローバルバリエーションの時代には、視野の狭い考えかたとして非難されるところかも知れない。

しかし、これは「循環型社会の生き方」として、わが民族が長い歴史を重ねつづ貫いてきた知恵なのだ。農耕民族固有の思想かも知れない。常に新天地を求めて移動する狩猟民族と大きく異なる点であろう。

講演日記

皆様のご支援でたくさんの講演依頼を頂きました。
2005年9月～2005年11月の講演をダイジェスト版でお知らせします。

- 日 時:9月27日(火)
- 主催者:FB会
- 目的:講演会
- テーマ:循環型社会形成について
- 場所:サンドーム福井 研修室
- 参加者:35名
- 講演者:森 建司
- 内容:1、すべての存在は循環する 2、経済活動と環境問題 3、高まりつつある循環型社会を求める気運(価値観の転換) 4、ビジネスチャンス発見の道 5、近江商人の「三方よし」

- 日 時:10月6日(木)
- 主催者:龍谷大学REC
- 目的:市民向けコミュニティカレッジ「MOH講座」
- テーマ:循環型社会への変革と環境倫理学
- 場所:龍谷大学瀬田キャンパス
- 参加者:13名
- 講演者:本田裕志

- 日 時:10月12日(水)
- 主催者:しがぎんニューリーダー倶楽部
- 目的:第29回ビジョン塾
- テーマ:「破壊と創造」への挑戦
- 場所:新江州、eプラザ
- 参加者:22名
- 講演者:森建司
- 内容:すぐに循環型社会はやって来る～そのときわが社は何をすべきか～
1、すべての存在は循環する 2、経済活動と環境問題 3、高まりつつある循環型社会を求める気運 4、ビジネスチャンス発見の道 5、近江商人の「三方よし」

- 日 時:10月20日(木)
- 主催者:(社)中津川法人会 恵那ブロック
- 目的:視察研修
- テーマ:会社見学と新しい時代に挑戦し続ける企業姿勢と近江商人魂
- 場所:新江州、eプラザ
- 参加者:17名
- 講演者:森建司
- 内容:1、カンパニー説明 2、開発三段階 3、ピラミッド型からネットワーク型へ 4、近江商人の家訓 5、循環型社会の経済 6、MOH運動の由来

- 日 時:10月22日(土)
- 主催者:長浜市、浅井町、びわ町
- 目的:新市創設シンポジウム
- テーマ:これからの地域経営とは
- 場所:長浜文化芸術会館
- 参加者:300名
- 講演者:梅津朋己、奥山博信、郷保正、森建司、森真理、大塚良彦
- 内容:パネルディスカッション「新長浜

を切り拓くニュービジネスの可能性」

- 日 時:10月26日(水)
- 主催者:(社)岐阜県経済同友会 岐阜南法人会笠松支部
- 目的:視察研修
- テーマ:近江商人に学ぶ
- 場所:新江州、eプラザ
- 参加者:40名
- 講演者:森建司
- 内容:循環型社会に学ぶ経営思考
1、わが社の事業分野 2、開発三段階 3、循環型社会システム研究所 4、近江商人の家訓 5、循環型社会の経済

- 日 時:10月27日(木)
- 主催者:比叡山延暦寺
- 目的:KBS京都TV番組「比叡の光」収録
- テーマ:MOHの会①②
- 場所:新江州、eプラザ
- 出演者:森建司
- 放映:新潟放送/11月26日&12月3日6:45～7:00 東京メトロポリタンTV/11月26日&12月3日8:45～9:00 びわ湖放送/11月27日&12月4日7:45～8:00 京都放送/11月27日&12月4日8:45～9:00 スカイA/11月29日&12月6日8:45～9:00

- 日 時:10月27日(木)
- 主催者:龍谷大学REC
- 目的:市民向けコミュニティカレッジ「MOH講座」
- テーマ:自分を変えよう調和型人間になるために
- 場所:龍谷大学瀬田キャンパス
- 参加者:13名
- 講演者:井上昌幸

- 日 時:11月17日(木)
- 主催者:龍谷大学REC
- 目的:市民向けコミュニティカレッジ「MOH講座」
- テーマ:暮らしの中で環境を学ぶ～子どもとともに～
- 場所:龍谷大学瀬田キャンパス
- 参加者:13名
- 講演者:今関信子

- 日 時:11月18日(金)
- 主催者:しがぎん能登川懇話会
- 目的:経済講演会
- テーマ:循環型社会に学ぶ経営思想
- 場所:ホテルニュー近江
- 参加者:24名
- 講演者:森建司
- 内容:1、わが社の事業分野 2、開発三段階 3、循環型社会システム研究所 4、近江商人の家訓 5、循環型社会の経済

いづれにしても大量システムによって、拡大し続けることを目指す経済社会では、家を核とする狭い生活空間、行動範囲という考え方は居場所がない。だが、求められる経済条件を最もよく満たす適地を目指して、地球の辺境をもさ迷い歩くのが、当世風のかっこいい姿なのであろうか。
しかし21世紀、われわれの求め続ける循環型社会は原則として地産地消である。農業生産はもとより、子々孫々に至る生存基盤として、自分の生まれ、育ち、死んでいく「我が家」を愛し、「我が地域」を愛し、それらを守り続ける事が幸せの道であると信じ、そして、自分の死後も我

我が子孫が、永遠に存続し続ける事を乞い願う事こそ、循環型社会の最も基本的な哲学の一つになるのではなからうか。

●もりけんじ 1936年、滋賀生まれ。滋賀県立長浜北高校卒業。新江州(株)代表取締役会長。滋賀経済同友会特別幹事、滋賀経済産業協会副会長など。
著書「吃音はなおよる」遊タイム出版、「循環型社会入門」新風舎

森建司

「人間学」を学ぼう

その4

井上 昌幸

前回は「人物学」とは何かについて説明しましたが、今回は安岡先生に長い間師事し、自らの「人物学」を五十年間実践された、元関西師友協会副会長の故豊田良平先生が書かれた「人物学覚え書き」を紹介いたしますので、出来ることから前向きに実践されることをお勧めします。

気魄・活力を旺盛にするにはどうすればよいか

気力・気魄は宇宙の大生命が人間に乗り移ったものであり、人間にとつて、これが最も重要です。ビジネスの世界でも、気力がなければ発言に迫力がなくなり、本来通るべきものが通りません。反対に、気迫があれば、黙っていてもこちらの主張が通ります。この気力・気魄が生れ付き旺盛な人もいれば、比較的弱い人もいます。人間誰しも、この気力・気魄を本来的に持っているのですが、それが発揮されるか否かは、時と場合によりけりです。平穩無事な場合、これらは発揮される稽古をしない限り出ないものです。そのため稽古とは、たとえば、ある仕事を始めたら、困難にぶつかっても最後までやり抜くことです。また、やりにくい仕事を間段なく継続してやることです。

「志」や「理想」を持てば、誰でもそれを達成しようという意欲、すなわち気力が自然に出てくるものです。したがって、気力・活力を旺盛にしようと思えば、理想精神を旺盛にして、志、つまり目標を持つに如くはなし、ということになります。このことを孟子は「千數百年前の昔に『志は氣の帥なり』(志は元氣・氣力の本である)と喝破しております。現代のわれわれの実生活上でも、目標(志)がなければ「気力」は出ないものです。ただし、志を持ち、目標を定める場合、その期限を切ることが、それを成就するための絶対条件です。

見識を得るにはどうすればよいか

見識さえあれば知識なんかなくても大したことはない、という人もいますがそうではない。知識がなければ、正しい見識や判断力は生まれようがない。その意味で、無知ほど怖いものはない。「知ったかぶり」はもつとけない。

また、「知識」そのものも、「真の智は人物自体から発する光でなくてはならない。すなわち独創的でないといけない」

では「見識」を得るには、いったいどうすればよいか。「理想を持つと、その理想に照らして、現実に対する反省・批判というものが起こってくる。即ち『見識』というものが生ずる」と云われています。私の場合は、

現実問題を判断するに当たつての手がかりとして、「軽重・先後・取捨選択」ということを常に念頭において考えることにしています。すなわち、何が重大で、何が比較的軽いのか、何を先にして、何を後にすべきか、いずれを取り、いずれを捨てるべきかといったことを、あるべきさま(理想)に照らして判断していこうとするわけです。

胆識を養うにはどうすればよいか

「見識」というものはひとつの決断力であり、決断は同時に行わないでなければならぬ。したがって見識は実践的でなければならぬ」と云われています。

その「見識」を実行しようとする時、その内容が自分以外の他者に影響を及ぼす場合は、当然ながら、それに伴う抵抗や障害が予想されます。だからこれを突破するには勇気が要るわけです。それは単なる蛮勇ではなく、一貫不変の理想に基づく「胆力のある見識——つまり胆識」に依るものでなければなりません。本物の「志氣」の持ち主であれば、その旺盛な志氣そのものが自ずと「その志を実践しようとする胆力」を生むというわけです。

氣の弱い、度胸のない人間は どうすればよいか

実際生活上、注意すべきことは、「胆識」でもってガムシャラに実行すればよいというわけではないことです。実際面では、人間関係の良し悪しが事の成否に大きく関わっています。だから己の見識を実践して成功しようと思えば、人間関係をよくしなければならぬ。そのためには周囲から信頼されるよう努めることです。人間関係の最も重要な核がこの「信頼」であり、信頼されれば人的障害はなくなるというわけです。胆力を養う手近な方法がひとつあります。なによりも場数を踏んでトレーニングを積むことです。勇気をもって場数を踏んでいるうちに自信ができて、自然に胆力が身につきます。

器量は生まれつきなのか

世間では、よく「地位がその人物を創る」といいます。普通の人でも、部長や社長になると、その地位にふさわしい器量が形成されてゆくことをいうのですが、これは、その地位に伴う責任と使命感を自覚することに基因していると思われれます。人間の器量は、その人の志(理想)に比例するものです。普通の人でも大志に向かつて努力すれば、それに応じて器量が大きくなってきます。

読者からのお便り

読者の皆様から届いたお便りをご紹介します(敬称は略します)。

●「循環型社会入門」は県立図書館でもよく借りていただいています(11月8日現在も貸し出し中です)。通信は図書館においておくと結構読んでいただけるようです。

滋賀県立図書館 岸本 岳文

●「志賀エッセイ」の掲載ありがとうございました。地主の橋詰さんや西川さんにお配りします。素敵な記事に恥じない「エッセイ」になるよう

スタッフ一同活動します。

大津市 坂田 徳一

●過日は、「比叡の光」でお世話になり、ありがとうございます。M・O・H通信楽しみに読んでいます。できぬ限りお返事をさせていただきます。

KBS京都アナウンサー 塩見 祐子

心中常に「喜神」を含むこと

われわれが不健康になったり、早く老いることの原因は、肉体より精神にあります。精神に感激性のなくなることにあります。向上の大事に感激性を持たなくなる。無心無欲はそういう感激の生活から来るもので、低俗な雑駁から解脱することにほかなりません。それではどうして精神を雑駁にしないか、次の三つを心がけましょう。

第一 心中常に「喜神」を含むこと

神とは深く根本的に指して言った心のことで、どんなに苦しいことに遭つても、心のどこか奥の方に喜びを持つということです。実例で言えば、人から誘われたり、あられもないことを言われると、怒るのが人情であるが、たとえ怒つてもその心のどこか奥に「いや、こういうことも実は自分を反省し練磨する所縁になる。そこで自分という人間が出来ていくのだ。結構、ありがたいことだ」と思うことです。人の毀誉褒貶なども、虚

第二 心中絶えず感謝の念を含むこと

ありがたいという気持ちを絶えず持つていること。一碗の飯を食つてもありがたい、無事に年を過ごしてもありがたい、何かにつけて感謝感恩の気持ちを持つことでもあります。

第三 常に陰徳を志すこと

絶えず人知れぬ善いことをすること。どんな小さいことでもよろしい、

大小にかかわらず、機会があつたら、人知れず善いことをしていこうと志すことでもあります。何か人知れず良心が満足するようなことを、大小小なりやると、常に「喜神」を含むことができます。

まず、このすばらしい人生を、生かされ生きる「皆とともに生活できる——これを喜ぶことです。こういうことを心の底から感ずることができれば、おのずから風貌が変わってきます。実際喜びながら艱難辛苦に向かい、喜びながら苦勞する。——こういうことも喜神を含んでいると平気でやれます。人生に無駄はありません。万事に感謝し、人に喜びを与えることが最高であります。

以上を総括して、人生は信頼(人間関係)と実行の問題であり、われわれの日々は、情熱と独創と実行の継続でなければなりません。「人物学」を学び実践する目的は何かと言えば「人生を楽しみ、喜ぶ」ためです。それは単に、仕事がうまくゆくから、幸福になるから、ということのためだけではありません。人間が大きくなり人物が出来てくるにつれて、何よりも自身の心に大きな自由(心の余裕もその一部)が生まれます。これはなににも代えがたい境地です。

喜神を含んで、日々周囲の人々に喜びを与えながら人物学を実践してゆくと、それが自ずから外に現れて否応なく人の認識にのびります。この時に人物というのが決まるのです。「あれは人物である」「あれは人物が出来ておる」というようなことが自然に言われるようになります。人物が出来るといふことは、すばらしいことでもあります。

以上で「人物学」についての説明を終わります。何かわかったようではないような印象を持たれたかも知れませんが、一回だけでなく数回読んでその内容を理解するように努めて下さい。大切なことは日常の自分の生活を振り返ってみて、なるほど自分はまたこのようなことが出来ていないということに気づくことです。そして何かひとつでも自分なりに実践してみるのです。

特に「心中常に喜神を含むこと」をどこかに貼って、今日一日を振り返ってみてはいかがでしょう。

井上昌幸

●いのつえ まさゆき 1940年1月1日生まれ。2000年日本電気硝子(株)定年退職。現在、滋賀県興業種交流連合会会長、STEP21滋賀県シアテクニカルエンジニアリングパートナーズ企業組合専務理事、滋賀県技術アドバイザー、大津木鶏クラブ代表世話人、近江素交会代表世話人資格/ISO14000&9000審査員補

「循環型社会を目指す～M・O・Hの会～」の
発足に当たって

代表 森 建司

20世紀型社会は経済至上主義の時代であった。科学技術の進歩とそれに伴う工業や流通の発展は、世界的なスケールで人々に物による恩恵をもたらしたが、同時にバランスのとれた自然との共生社会を破壊した。経済至上主義とは物の豊かさを最高の幸せとして捉え、その対極にあるものの価値をほとんど消去しようとするものである。

今こそ新しい時代として循環型社会を作ろうとしているわれわれは、自己を証明する、こころや思いを取り戻さなければならない。

この実現のために「循環型社会を目指す～M・O・Hの会～」を設立する。

《次号予告》

2006年2月末発行予定

- 対談「企業のCSRを語る」
滋賀銀行 頭取 高田 紘一氏
新江州株式会社 会長 森 建司 氏
- 再録「REC・MOH講座」ダイジェスト
- ◎新連載「原修子のドイツ便り」ドイツの今を原修子がみずみずしく綴る
- ◎新連載「循環型社会の経済」 大阪産業大学 助教授 花田 真理子
- 連載：作家 今関 信子 氏
- 連載：龍谷大学 助教授 本田 裕志 氏
- 連載：循環型社会システム 代表 森 建司 氏
- 連載：井上 昌幸 氏
- 挿絵：佐々木 洋一 氏
- 漫画：オノ ミユキ 氏
- 写真：辻村 耕司 氏

「編集後記」

■改革を語るときは、改革後の姿を示す必要がある。しかしそこで語る改革後の姿は、未来のある条件下の予測であって、別の（本題から離れた）条件が加わればもつと違ったものになるはずだ。未来像は「総論あつて各論なし」なのかも………建

■REC・MOH講座は毎回13人の方が参加くださっています。すぐくうれしくて、感謝しています。先生方の講義は毎回、趣向が変わって楽しいです。現在半分が終了しました。そこで、来年は「MOH読者の会」をしようかと画策しています。月に一度、MOH通信に登場していただいた取材対象の方と読者との交流ができれば、と思っています。まだ企画なので、詳細は決まり次第お知らせします。………琴

「MOH読者の会」を予定しております。

●2006年3月18日(土) 午後～

年間6回開催、会費をいただきます(金額未定)。MOH通信に登場していただいた方のお話と懇談を予定。現在、準備進行中です。内容は次の通り(案です)。

- ★麦の家／「人と農」 ★わらの家／「快適なスローライフ」 ★300年住宅／「祖先の家をいかに残すか」 ★ブルーベリー・フィールズ／「安全な食」 ★古材バンクの会／「古い家のよさ」 ★ペンションシープ／「“安らぎの場”の作り」 ★嵐山ハイブリッド美術館／「こだわりの表現力」 ★子育て里山塾／「里山での素敵な暮らし」★至誠庵／「湖の幸から学んだこと」 ★志賀エコビレッジ／「子育てを通じてみる今」 ★柴山建築研究所／「“ごった煮”生活のすすめ」
- 順不同、敬称略、現在、講演依頼中です。決定次第お知らせします。

小・中学生、高校生、大学生、社会人の皆様へ
環境学習の講師、出張講演を承ります

環境配慮型ショールーム“eプラザ”の見学も受け付けます
ぜひ、ご活用ください



びわ南小学校のみなさんからよせがきが届きました。

《M・O・H通信》購読受付中!

あなたも「M・O・H通信」を購読しませんか。特典として、M・O・H通信、講演会のご案内をいたします。活動やこの通信についての、ご意見もお聞かせください。

あなたのお名前、年齢、郵便番号、住所、電話番号、fax(あれば)、e-mailアドレス(あれば)、あなたの心に残った一言をご記入の上、お申し込みください。通信をお送りします。申込書をfax、郵送、mailでお送りください。

キリトリ線

《M・O・H通信》購読申込書

フリガナ		年齢	
お名前			
住所	〒		
電話		FAX	
メールアドレス			
希望口数	1口=3,000円		
あなたの心に残った一言を書いてください。			

*記入いただいた内容については、目的以外のことに使用または転用はいたしません。

M・O・H通信 Vol.10(通巻11号)

2005年12月31日発行

●編集・発行/循環型社会システム研究所 M・O・Hの会

M・O・H 通信事務局

循環型社会システム研究所(新江州(株)内)

代表 森 建司 取材 細井 美保
編集長・取材 ツジムラ コトミ デザイン 伊達デザイン室
編集協力 稲垣 重雄 写真 辻村写真事務所
村山 明子 奥田珠貴

印刷 (株)ワキプリントピア

〒526-0111 滋賀県東浅井郡びわ町川道759-3

TEL.0749-72-5277 FAX.0749-72-8681

email: tsujimura@shingoshu.co.jp

【購読費振込先】

M・O・Hの会 代表 森 建司

- 滋賀銀行 長浜支店 普通 136987(モウノカイ ダイヒョウ モリケンジ)
- 長浜信用金庫 本店 普通 0577468(モウノカイ ダイヒョウ モリケンジ)
- びわこ銀行 長浜支店 普通 721691(モウノカイ ダイヒョウ モリケンジ)

*記事中で写真・本文につきましては、無断転載を禁じます。